

平成 26 年度地域環境取組支援事業実績報告書

1 環境活動名

オランウータンの住む森とわたしたちの生活
～マレーシアの小学生との交流を通して考える環境問題～

2 活動の内容

- 活動人数： 12 名
- 活動場所： 廿日市市立玖島小学校
- 活動目的： 地球規模での環境問題に目を向け、自分たちの生活を振り返り、自分たちができる取組を考え実行する。
- 実施結果：
 - (1) 4月15日 広島修道大学名誉教授 森嶋彰先生を迎えて
マレーシアクライト小学校からのビデオ紹介及び環境学習



玖島小学校の児童は、「将来の夢」をビデオレターにして送りました。森嶋先生たちがクライト小学校の学校生活や民族舞踊等の紹介ビデオを届けてくれました。日本はマレーシアの木材を多く輸入していることや、廿日市市の木材港はトップレベルの輸入高があることを知りました。そのマレーシアに住むオランウータンの森が少なくなっていることと自分たちの生活は無関係ではないと知りました。

(2) 10月27日 広島大学平和科学研究センター助教 小倉亜紗美先生を迎えて
ワークショップ及び環境学習



小倉先生の環境教室

9:45~10:25

ねらい 環境はつながっているということに気付き自分たちの生活を見つめ直す

テーマ 私たちの服、食べものはどこからきたの

① 今日来ている服はどこで作られたものか考える

原材料の輸入のグラフから、国産のものはほとんどないことに気付く

② 今日の給食の材料はどこからきたものか考える。

日本の食糧の60%は輸入に頼っていることや輸入する食料を育てるために使った水の量は日本にある水の量より多いことを知る。

③ 私たちの生活は世界に支えられていることに気付く

「世界がもし100人の村だったら」等から世界の中で今の私たちのような生活をしている人々は少ないことに気付く。

「リオの伝説のスピーチ」

「あなたが世界を変える日」

「ハチドリの一しずく」の紹介

10:45~12:25

ねらい マレーシアのオランウータンの森とぼくらの生活の関連に気付く

テーマ 私たちの生活とマレーシアのオランウータンの森の関係

①マレーシアボルネオ島の紹介

②写真パズル、意見交流

③熱帯雨林と私たちの生活について

④パームオイルを使った製品の分類体験と感想交流

⑤なんのために学習するのか

(3) 10月18日 インディオの長老ラオー二さんと交流



アマゾンインディオの長老ラオー二氏が来日し、宮島の大聖院で交流会がありました。民族の踊りを見せてもらったり、お話を聞いたりしました。自然と共に生きる姿と人柄の温かさに感動しました。

(4) 11月15日 学習発表会で環境問題についての意見文や、リーフレットを掲示
「閉校後も玖島小のシンボルツリーを守ろう」と話し合い、ぎんなんを配って地域の方々に呼びかけました。

<p>大いちょうと玖島富士は大好きなところですよ。私たちは、学校がなくなっても残っていてほしいと思います。</p> 	 <p>今年は「ぎんなん」がたくさんとれました。昼食後に体育館でメッセージ&写真付き「ぎんなん」を配ります。玖島小5、6年生</p>
--	---



(5) 12月12日 ふるさとの未来を見つめる学習

閉所になった玖島保育所のシンボルツリー「メタセコイヤ」を使って鉛筆立てを作りました。



(6) 1月 マレーシアクライト小学校へ絵はがきで交流

地域の方々と一緒に和紙のはがきを作りました。原材料は、玖島産の雁皮と大竹産の楮を混ぜたものです。大竹手すき和紙保存会で指導を受けながら作成しました。

そのはがきに墨で絵を書いてビデオレター等とともに、クライト小学校のみんなに送りました。私たちの祖先はこうして自然から多くのものを作りだして生活してきたことに気付きました。また、その生活を守っていくのはマレーシアでも日本でも大切な活動であることに思いをはせながら絵手紙を書きました。



○ 広報活動

玖島市民センターにて掲示

